

Yokohama Research Institute · Bulletin

一九二六年、ローザンヌ

ブロイラー対クロード

Lausanne MCMXXVI

松石 竹志

Takeshi Matsuishi, M.D., Ph.D. · 横浜基礎研究所

Septembris MMXXVI 二〇二六年九月

二層構造 ／ 大陸的前提 ／ *vieler* ≠ *aller*

前回そろえた三つの道具を、本日は一つの会議に当てます。

I

会議の場

八月二日～七日

一つの概念をめぐる公開審問

フランス語圏の学会における「報告」という制度



Dramatis personae

その場にいた人々



※ 討論記録から読み取れる立場の見取り図（解釈を含む）

II

ブローラーの報告

« … j'ai l'impression d'être un personnage légendaire … »

自分は、語ったことのない言葉を帰せられる
伝説的人物のような印象を受ける。

統合失調症は臨床的実体であるだけでなく、
同時に解剖病理学的実体でもある。

器質的起源は今日、必要なすべての証拠をもって実証できる。

ブロイラー——実証できる
シュナイダー——信仰告白である

III

クロードの対抗報告

早発性痴呆は経過によって、
統合失調症は機制によって定義される。

重ね合わせれば、経過診断の伝統が空洞化する。

——「急性統合失調症」の否定。

批判するところは批判し、
器質発生論は手放さない。

二六歳のエーがこの年に取った位置が、そのまま生涯の位置になった。

IV

討論の現場

コンゴの例

何が失われているのか

« Où est l'Égypte ? » — « Entre l'Assyrie et le Congo. »

問い

「エジプトはどこにあるか」

活性化される連合の候補

- ・地理的・空間的（北アフリカ、地中海）
- ・偶発的近接（博物館の展示室の隣接）

アリストテレス：類似・対比・近接

正常な思考

問いの文脈が論理的・空間的制約を
活性化し、偶発的連合を抑制する
→ 「北アフリカです」

統合失調症

文脈制約による選択的制御が弱化
偶発的連合が思考の表面へ浮上
→ 「アッシリアとコンゴの間」

ブロイラーの論点

知識は失われていない——患者の答えはエジプトの位置を知っていることを証明している。

失われたのは連想そのものではなく、連想の選択的制御である。

クルボンの異論（1926）

「教育程度の低い一般人でも同じ返答をしうる」

百年後の裏書き

予測符号化（2009）・異常顕著性（2003）＝文脈制御の障害

知識は失われていない。
失われたのは、連想の選択的制御である。

一九二六年には決着がつかなかった。
決着をつけたのは、百年後の神経科学であった。

Wahnideen — aber nicht alle — im Traum gebildet

S. 357。二百五十頁を隔てて、同じ制限。
一度なら言い落とし、二度なら留保である。

エーは、ブロイラーが退けた道具で
ブロイラーを読んだ。

夢幻様譫妄（*délire onirique*）——ブロイラーが距離を取ったフランスの分類。
それがエーの読解の枠組みそのものであった。

V

ミンコフスキーとの分岐

同じ書物から、二つの読解が分かれた。

理論の対立は、人間的断絶を意味しなかった——
エーは毎月、それとなくミンコフスキーを訪ねていた。

VI

ヤスパースの批判

… ein Schema der Idee, aber nicht ein
erforschbarer Gegenstand wirklicher Erkenntnis.

得られるのは理念の図式であって、
現実の認識の探究可能な対象ではない。

ヤスパーズが探究不能な構成物を見たところに、
エーは唯一の地盤を見た。

VII

二重の創造的変換

Duplex conversio

正確な継承ではなかった

Minkowski 1927

「自閉症」→ 生き[▼]られた時間
現象学・実存論的方向へ

ブロイラーの器質発生論

連合弛緩 → 自閉症 → 妄想

Ey

「揺りか[▲]ご」→ 解体論
神経学的解体論の方向へ

代償＝ドイツ語圏が保持した「一次妄想」

収益＝百年後の神経科学と共鳴する枠組み

百年



エーが読んだのは 1911 年の書物。その読解が公的に問われたのが 1926 年。
その帰結が制度に現れるまでに、百年近くを要した。

変換の代償と収益を正確に記述すること。

それが、精神医学史における公正な評価の条件だと考えます。



質疑応答

15 min.